

告 2 1 5 - 3  
(告 2 1 5 - 2 の反訳)

[告発人 野村]

いま、2つ進行してるのがあるんですね。僕も途中まで、町から情報の請求をもらって、どうしようか、今、決めかねているところですけど、これ言いましたね、桜井さんに。これを買ったのは J R T という会社で、これを買った翌年・・・翌々年かな。

たしか・・・違うな・・・思い出した。2016年が売買の契約も締結された年で、その年に、ここも実は・・・ここに建物がありますよね。これ自然展示館という、蘭越町町の施設があって、それも前の町長、前の町長は公共事業好きで有名だったんですね。ハコモノ事業をやりたがる、ただ、ことごとく失敗してる。

海岸沿いの貝の館、びっくりするぐらい入場者数の少ないところですよ。

[別の捜査官]

道の駅のところ？

[告発人 野村]

道の駅のところ。おそろく来場者の少ない・・・（不明）・・・うまくいってないけど、

（元自然公園館を示しながら）これは、ちょっと前に閉鎖して、これ 9000 万かけたんですよ。この立地を考えれば、やり方によっては、いくらでも利用価値のある建物。これと同じようなものを、この場所に建てようとしても、建てられないわけですよ。

それはね。彼らがやってたのは、子供だましのようなハリボテの木のオバケを置いてね、それで 200 円、400 円の入場料を取ろうとしてた。あと、あるのは、写真パネルだけです。明らかに「そんなことでおカネが取れるわけないでしょ？」ってことやってた。案の定、人が来なくなって、閉鎖して、それっきりなんですね。それを、2016年の段階で、町長が、J R T に対して、「これも一緒にやってもらえないか？」という話をしてるんです。それが今年、今ちょうど真っ最中で、募集してるんですね。ちょっと前後しちゃいますね、声を掛けた後に、今年の5月か

告 2 1 5 - 3  
(告 2 1 5 - 2 の反訳)

ら公募を始めたんですよ。

もう蘭越町のスキー場のときと全く一緒。その公募してる内容が、呆れるほどに、情報が薄い。間取り図も平面積も、何も出てない。最低賃料も何も出てない。ただ漠然と、「興味があったら、提案してください」と。賃料も含めて、びっくりするぐらい、「これ、どうやって提案すればいいんだよ？」ってぐらい、しょぼい。写真の1枚も掲載してない。それを、町の広報に。町のお知らせのところに、1回だけポツンと載っただけ。何もその後は、やらない。もう（不明）と全く一緒で・・・

（スキー場の公募を箇所を示したながら）このときは、まだ、スキー場だから、（不明）広報してたけど。でも、このときに出された情報も、ものすごく薄いんですよ。その事業の売り値が1000万円だったとしても、それをちゃんと、継続した事業としてやるには、数千万の投資が必要で、数千万の投資を、第2回目の公募で出したように、わずか42日間で、年末年始を挟んだ20何日間で「出せ」って言っても、出せるわけがなくて、「誰も来させない前提でやってるでしょ？」と指さされても、しょうがないんですよ。

これ昔ね、今はだいぶ変わりましたが、かつて、入札のときに、1週間しか時間を置かないで、多分、決まってるわけですよ、「お前んところにやらせる」と。でも、一応、体裁上、公募しないと駄目だから、入札にしないと駄目だから。

警察もいっぱいありますよ。僕、そのときいっぱい行ってたから、あのときね、90年代ですよ。90年代。

「試される大地」というキャッチフレーズを出す前に、北海道で。ものすごく大規模な、組織ぐるみの汚職、不正が蔓延した時期があるんです。購買ですね、購買のときに、出入りしている業者から、やっぱり担当者が決めたがるんですよ。「お前のところから買うから」とね。

その代わり、接待があったり、ウラ金があったりしてますよ。表には、ほとんどないけどね。それがあまりにもひどかったから、「あんまり短い期間で、入札するの

告 2 1 5 - 3  
(告 2 1 5 - 2 の反訳)

は止めて」と。「2週間以下は駄目」じゃなかったかな。

その頃は、1週間しか公示期間を置かないで、入札したからね。「フェアにやったんだ」という建前に使うっていうのが、横行してたわけですよ。

それと一緒にわけですよ、「これ、どうやって応募したらいいの？」っていうペラペラの情報で、あまり人の目に触れないところで公募をやってね。それで1社しか来なかったとしても、一応、それで成立した。公募をやったという建前はつくわけですよ。

そういうやり方を恒常的にやってる。それが今ここで行われてて、それで今、いろいろ証拠を取ってますけどね。確実に、JRTと話を進めますから。もう何年も前から、議会にも報告されてるし、議会にも報告してて、今の観光課長を問い詰めても、観光の知識も何も何もない、本当に呆れるほどに、何もわかってない。自分が(不明)してやってる、と言ってるけどね。

ちょっと、ごめんなさいね。僕も証拠のあることと、証拠のないことを、分けて話すようにしてるんです。証拠のあることだけの話をしてしまうと、本当に伝わる話にならないですね。(不明)だから、僕も悩みながら、いま喋ってるんですけど、ちょっと証拠のないものについても、それなりに確信を持って、「こいつらやるな」と。前後関係とか、言いながら言うかね。

蘭越町は、間違いなく、の宮谷内さんの、28年間で、あまりにも長すぎた。その昭和の時代の悪い、公共事業ありき、トップダウン、人の意見を何も聞かない。

「俺を言う通りにやればいいんだ」「責任とるから」と、ヤクザみたいなやり方で、部下を使って、部下は何も考えなくていいわけですよ。「言われた通りにやればいい」と、何も考えないでね。「町長が言ったから」、「副町長に言われた通りやって何が悪い」というものを、当たり前のようにやってる。呆れるぐらい。

記録の残し方がひどい。僕は、これちょっと問題にし始めた後に、これは去年の話ですよ。

去年ホームページの、ウェブサイトの入札があった。そのときに、事前に話を聞いて

告 2 1 5 - 3  
(告 2 1 5 - 2 の反訳)

た1社と契約をしてる。その事前の話を、情報公開を求めたら、「その記録は残ってない」と言う。「なぜですか?」と。「そういう裏々で決めちゃうから、記録って取らないと駄目なんですよ」と。「いや、取ろう思わなかった」「取る必要ないと思ったから」。「じゃあ、何を残すんですか?」っていうぐらいね。

多分、都合の悪いものは残さない。僕につつかれたから、なおさら残さない方向に走ってるんですね。僕は、そこに書いてある通り、議会に出した。刑事告訴しないで、議会に出したのは、民間的な、刑事以外の自浄作用、議会のチェック機能を期待してたところもあるんですね。そもそも、そこまで(不明)したいんだったら、最初から議会ななんか頼らない。でも、やってみたら案の定。僕は出すまで、まともなものをやったことないんですよ。彼らは。

フェアな、どうやったら告発者に対して、フェアなやり方ができるかということが、彼らの頭では、考えられない。その議会の・・・あんなやり方にしてしまう。何が悪いかわかっていないからね、町長と副所長は「これでみそぎは終わった」とね、もう議会も承認したからね。

もう前の通りということで、で、今やってるのは、全く同じやり方で、公募をやってる。今まさにね。この公募は、月末に終わる。僕があまりのもしつこく、いや、ちょっと僕やりすぎちゃったから。本当は、泳がせて、JRT、もしくは、JRTの関連会社が入札して、いずれ一緒になるわけですよ。

JRTが買ってくれれば、それをベースとして、告発状を作って、その付帯情報として、スキー場のケースを添える、というやり方の方が、ベストなんです。ただ。僕も少し強く抗議しすぎちゃったんで、警戒して、入札が入らないかもしれない。でも、もし入札すれば、JRTが落とされたってことになれば、それを基に、告発状を書くことを、いま考えてるんです。

[桜井警部補]

これとは別に・・・

[告発人 野村]

いや、これを書き換えて、これに、さらに、この・・・

[別の捜査官]

ベースがあって、今回の起きた。

[告発人 野村]

そうそう。今回入札される・・・あのね、全くいっしょ。

[桜井警部補]

また・・・入れて・・・このベースに職権濫用を入れつつ、こっちの売買入れる方向になるのか・・・

[告発人 野村]

ん、チセヌプリのスキー場の話し？

[桜井警部補]

そうそう、これの本来ある（不明）の中にある・・・

[告発人 野村]

これ抜かしますよ、全部。そこまで僕も手間をかけられない。

[桜井警部補]

こっちもってことですね。それを踏まえた告発状にするか、どうするかっていうところ・・・

[告発人 野村]

そうですね・・・

[別の捜査官]

なるほど・・・であれば、今、中途半端に、職権濫用で受けるよりも、こっちが確定してからにした方がいいのかな、っていう感じですか・・・

[告発人 野村]

ぼくもその様子を見てたから・・・

[別の捜査官]

だから、「ちょっと町に当たるのは、待ってくれ」って、さっきのお話になるんで

すね。

[告発人 野村]

そうそう。

[別の捜査官]

なるほど。

[桜井警部補]

うん。待つというか、うん。もっと・・・